

1. 令和2年度 朱雀中学校 学校教育目標

**実社会に生かせる課題解決力と、
人と交わるコミュニケーション力をもち、
自分の未来を創造する生徒を育てる。**

【めざす生徒像】

他者との関わりを大切に、自ら進んで行動し、未来を創造していく中学生

2. 学校経営の基本構想

課題解決力とコミュニケーション力を育み、自らの未来を創造する生徒とその集団を育てる。

変化の激しい21世紀社会において、一人ひとりの個性を伸長する学習を展開するとともに、未来社会の一員として調和のとれた豊かな感性を磨く。朱雀中学校の伝統を大切にし、生徒一人ひとりを大切にした、ていねいな指導を、ねばり強く行う。

平成28年度「よんきゅう絆プロジェクト」（4中9小小中一貫教育）が立ち上がり5年目を迎える。小学校から継続して取り組んでいる成果が上がっていることを踏まえて、このプロジェクトで企画した教育構想および内容は、引き続き実践していく。「よんきゅう絆プロジェクト」では、児童生徒に付けたい資質・能力を「課題解決力・コミュニケーション力」としている。

小中一貫教育目標として「よんきゅう絆プロジェクト」のめざすべき生徒像「未来を拓きしなやかに生きる子どもの育成」につなげるためにも、この資質・能力を育むことを目標として取り組む。ここで言う「コミュニケーション力」とは、単に談笑をすることではない。課題を解決するために、自分の意見を伝え、他者の考えを聞き話し合いのできる力である。進路保障を鑑み、生徒の学力の向上はもちろんであるが、「道徳の時間」を充実させ、思いやりの心をもち、生徒が生徒を律することのできる集団の育成を図っていく。さらには、生徒会を中心に自治活動が行える集団の育成をめざし、教員が生徒とともに「朱雀愛」を育てることを大切に考える。個々の生徒が抱えるさまざまな課題解決のために、教員一人ひとりが「チーム朱雀」の一員としての自覚をもち、情報共有をしつつ、「チーム」として対応していくことを目指す。

3. 具体的な実践

① 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり

- ・「9年間の『学び』」をふまえ、全ての教育活動の基本となる「授業」を構築する。
- ・教科会を軸に授業の工夫を検討し、研究授業を通して指導力の向上を図る。

② 他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒の育成

- ・「9年間の『育ち』」をふまえた生徒指導を実践する。
- ・生徒が生徒を律することのできる生徒集団を育成する。
- ・場と状況に応じた適切な意思決定を伴った行動ができるように中学生としての意識改革を図る。

③ 「一人ひとりを大切にする事」の共通理解と実践

- ・3年間を見通した人権学習を構築し、生徒の人権意識の醸成と思いやりの心を育てていく。
- ・「道徳の時間」を充実させ、「規範意識」を醸成するとともに「心」を育てる。

④ 「見逃さない指導」と「指導しきる」の徹底、および情報の共有による生徒指導の実践

- ・情報を共有して素早い対応を心掛け、「チーム」として生徒指導をすすめていく。
- ・生徒の「多様性を寛容する力」の向上を教育活動のすべてにおいて意識し、いじめにおいても発生させない、許さない指導の徹底を図る。